

巻 頭 言

取 締 役

技術研究本部副本部長 大 橋 延 夫



昨昭和59年の国内ステンレス鋼生産量は内需，輸出の好況に支えられて大幅な伸びを見せ，熱間圧延鋼材ベースで過去最高の214万トンに達した。ステンレス鋼はその耐食性，耐熱性，表面の美麗さなどの特性を生かして，使用される分野は着実に拡大しつつあり，生産量の増加基調は今後も続くと思われる。

このような趨勢に鑑み，当社ではステンレス鋼板部門の抜本的強化を目指して，昭和56年には製鋼部門，続く57年には熱延鋼板焼鈍酸洗設備までの製造工程を千葉製鉄所に移管し，生産能力の拡大，コストダウン，品質の向上に取り組んできた。また，従来通り阪神製造所西宮地区にて行っている冷間圧延以降の工程についても，各設備の合理化とともに昭和58年には新精整工場の建設，59年には生産管理システムの改善を実施した。さらに上述の製造体制の改善に加えて，ステンレス鋼の営業，管理，研究部門の強化も行っており，これらの諸施策はいずれも所期の成果を挙げることができたといえよう。

次に，今後の課題としては第一に徹底したコストダウンの追求が重要である。原材料のすべてを海外に依存する日本にとって，輸出市場における欧州各ミルとの熾烈な競争，新興諸国からの追い上げに対処していくためには，安価な原料を状況に応じて使いわける製鋼技術，一貫製鉄所の利点を生かした普通鋼製造設備の共有化，従来工程の連続化，省略などの新しい製造技術の開発がぜひとも必要である。大幅なコストダウンを図ることができれば，その優れた機能を生かして他の基礎資材に置き換え，大量の需要増につながる可能性もある。

第二の課題としては，技術の発展にともなって生ずる各需要分野の多様な要求に応じた新製品の開発と積極的な用途開発による新規需要の拡大である。今後，現在の需要の大きな部分を占める耐久消費材の大幅な伸びは期待できないが，電子材料，建材，車輛などの分野で種々の新規需要が開発されつつあり，これらの面からの需要増が期待される。

当社としても，今後これらの課題に向けて需要家各位のご要望，ご期待にそうよう一層の努力を重ねていく所存である。

本誌は当社のステンレス鋼分野における最近の研究開発成果の一端をまとめたものであり，読者のご参考になれば幸いである。今後のご指導，ご鞭撻を切にお願いする次第である。